

【小論文】

1,（設問1）では、まず与えられた資料を読んだ的確に要約することが求められています。短時間のうちに文章を読み、その内容を的確に把握できるかどうかを試される問題です。

(1) クリス・ローソンさんの考え方は、主に外国人旅行客の立場から、①日本のホテルや旅館が欧米の観光客のニーズにできていないため、英語サイトで予約ができ費用も安い「民泊」が利用されている、②広く認める代わりに営業日数を制限しようという「民泊」に対する規制は意味のある規制ではなく、むしろ行政は安全面や周囲とのトラブルの際の対応について対策を強めるべきである、③オーナーが同じ家か近くにいる「民泊」と、高利回りの投資ととらえ、代行業者に任せる「民泊」とがあり、前者を後押しし、後者には厳しめに対応すべきである、というものです。

(2) 糟谷範子さんの考え方は、行政（京都市）の立場から、①周辺住民とのトラブルが起きているとの情報や警察が無許可営業をしていた民泊業者を摘発したことから、京都市内の実態調査をしたところ、8つの仲介サイトの2700施設のうち、許可を得ていることが確認できたのは7%だけであり、9割は違法民泊の可能性が高いことが判明するとともに、安易に金儲けに走る民泊業者もいることが判明した、②京町家を生かした民宿には独自の規制緩和を行い、質の高い民泊は増やしたいと考えているが、政府が規制緩和をするワンルーム物件を使った民泊には問題意識もっている、③京都市は市民からの無許可民泊の通報を受け付ける窓口も設置し、悪質な場合には刑事告発など厳正な対処を考えている、というものです。

(3) 田邊泰之さんの考え方は、「民泊」の仲介業者の立場から、①「民泊」が増加しているのは、ゲストが地元の人家に泊まり、本物の日常生活の体験を望んでいること、ホストにとっては国際交流ができ、副収入が得られることにある、②Airbnbでは利用者にパスポート・免許証などの登録を勧め、登録者のIPアドレスも取得しているため、登録者はおかしなことはできないようになっている、③Airbnbのホームページを介し、ホストとゲストが互いに評価し合うので、悪い利用者は淘汰されていくし、トラブルについては保険もある、④「民泊」の制度設計について政府の最終案が出され、議論が進んでいることは非常にいいことであるが、細かい点については今コメントできない、最終的にルールができたなら、Airbnbは現在と同様にそのルールに従う、というものです。

2,次に、（設問2）では、これらの意見を踏まえた上で、「民泊」のメリット、デメリットを具体的に指摘しながら、それぞれの意見を述べることを求めています。社会内に生じる問題等について、一面的な見方をするのではなく、さまざまな角度からとらえることができる能力が試されています。次のような点を手がかりに考えていくことができるでしょう。

(1) 「民泊」を推進することのメリットとしては、①規制を緩和し、各自の努力、創意工夫ができる範囲を広げることによって、社会内の活動が活発化し、社会を進展させることになる、すなわち規制緩和によるメリットということが考えられるでし

よう。

また、②「民泊」が広く活用されることによってもたらされる経済効果ということも考えられます。

そして、より具体的な「民泊」のメリットとしては、③外国人観光客が日本人の通常の生活に触れることができ、ひいては日本文化に直接触れる機会が多くなる、ということも考えられるでしょう。

(2) 他方、デメリットとしては、①より厳しい規制がされているホテルや旅館と比較すると、「民泊」には衛生面での問題があり、宿泊者らの健康面に対する問題も生じるおそれがあること、②深夜まで宿泊者が騒いだり、ゴミを散らかすなど、周辺住民とのトラブルが発生するおそれがあるが、このようなトラブルに対する体制が整っていない、③宿泊者が誰であるか等を把握できず、テロ活動に利用されるなどの危険性がある、などが考えられるでしょう。

以上のようなメリット、デメリットをできる限り具体的に指摘した上で、「民泊」に対する規制についてのそれぞれの意見を述べてもらうこととなります。

以上